

北海道農業・農村情報誌[コンファ]

confa

SPRING ISSUE 2017

vol. 48

農業と、話をしよう。

空の下で、
学んだことは忘れない。

農へウエルカム!

農産物直売所 北の大地マルシェ

岩見沢市

田んぼと畑のとなりに、
農家がつくったマルシェです。

岩見沢市北村豊正地区では、35戸の農家が集まり「豊正FAM協議会」を結成。みんなで地域農業を守ろうと、技術や経営の勉強会、特産品づくりなどの活動を続けています。2015年には、消費者とつながる活動拠点として「北の大地マルシェ」をオープン。近郊はもちろん、札幌から足を運ぶ人も増えている直売所です。

「北の大地マルシェ」の特徴は、出品する農家の数が多いこと。昨年は野菜が46人、加工品が18人、豊正地区を中心に、月形、美唄、江別からも出品。そのため、珍しい野菜やカラフル野菜が棚に並び、手作り商品も多彩な品ぞろえです。もうひとつの特徴は、加工場が併設されていること。豊正地区で生産量が伸びている落花生は、収穫したその日にゆでて「塩ゆで落花生」として発売。さらに、地元のバジルと落花生を合わせた「バジルソース」も好評で、「オリジナル商品をもっと増やしていきたい」と加工担当の徳橋さん。リーダーの小西さんは、「農家のお店なので、料理法や野菜づくりのことなど、気軽に聞いてください」とのこと。

2017年は6月からの営業を予定。田園のまん中にあるマルシェへぜひお出かけください。

お問い合わせは

北の大地マルシェ 岩見沢市北村豊正649番地 TEL 090-9510-3881
営業/9時~16時(水曜定休)※11月~5月休業 facebook「北の大地マルシェ」

バックナンバーは「コンファ」で検索!

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsi/seisakug/confa.htm>

農業と、話をしよう。

confa

2017
春

北海道農業・農村情報誌 [コンファ] VOL.48

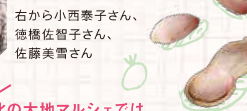
「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)を意図したタイトルです。「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」という思いをこめています。



生産者ごとに野菜や
手作り品が並ぶ店内



地元の落花生を使った
「バジルソース」は人気商品



右から小西さなさん、
徳橋佐智子さん、
佐藤美雪さん



北の大地マルシェでは、
こんなイベントも開催しています!

- 農村を歩いて 地元メニューを味わう
- 畑から 料理まで楽しめる
- 収穫などが体験できる
- ピクニック交流会 7月
- 落花生まつり 10月
- 落花生
- オーナー制度

2017年2月発行

【企画・発行】北海道農政課農政調整グループ

TEL(代)011(231)4111・内線(27)126

【制作】(株)電通北海道

特集

空の下で、 学んだことは忘れない。

畑や田んぼや牧場が「学校」になると、
知らなかったことが、いっぱい見えてきます。
今年も、あなたも授業を受けてみませんか？
子どもも、おとなも、農村はいつでも待っています。

農業のまちで続く 18年目の学校へ

十勝平野の真ん中に位置する芽室町は、面積の4割以上が農地という農業のまちです。北海道の主要作物である小麦、ばれいしょ、小豆、てん菜の生産量は全道でもトップクラス。スイートコーンとコボウは、全道一の生産量を誇ります。

そんな芽室町で、18年前から実践している食育事業が「めむろ農業小学校」です。種まきから管理、収穫して食べるまでの「体験」を通して、芽室の子どもたちに、芽室町の農業を理解し食の大切さを実感してほしいと開校しました。校長先生は町長、事務局は町の農林課、そして、先生は農家青年が担当します。ほかにも地域の農家や老人クラブなど、町が一体となって取り組む食育です。特に注目したいのが、JAめむろ青年部上伏古支部が先生として全面的に協力していること。青年部は35歳までなのでメンバーの入れ替わりはありますがこの10年、メインの活動として「めむろ農業小学校」のプログラムが引き継がれています。



収穫したなすを思わずカブリ?



3人の担任(青年部員)の名前が学級名



農業を授業に。
若い先生たちが
教えてくれること。

めむろ農業小学校 [芽室町]

台風の被害を受けたじゃがいもを選別しながら収穫

もくじ

1 「特集」 空の下で、学んだことは忘れない。

2 農業を授業に。
若い先生たちが
教えてくれること。
めむろ農業小学校 [芽室町]

5 学校の先生×若手農業者
ただいま授業中
音標小学校&関口牧場 [枝幸町]

7 高校生たちの「アニマドローレ」
アニマドロープロジェクト [札幌市]

8 ふるさとの、たからもの。
「たんぼほ会」 [上ノ国町]

9 ふれあいファームへいこう!

11 コンファ農業教室

13 『純農Boy』活躍中!

14 北海道からのお知らせ

15 農へウェルカム!



#confa2016

Instagramを#confa2016で検索
すると今号で取材した方たちが登場。
北海道の農業・農村の様子をリアルタイムに見ることができます。



かぼちゃの説明を真剣に聞く子どもたち



広い小麦畑の中での授業(画像提供:芽室町)



収穫した小麦を使った調理実習(画像提供:芽室町)



畑に残る台風の被害 農業の現実も伝えたい

めむろ農業小学校では、5月から12月までに年9回の授業を行っています。内容は、種まき、苗植え、管理、収穫、調理実習などで、夏には町の研修施設に1泊する交流会もあります。毎年春に、小学校を通じて募集しますが、30名の定員が年々増えて、最近では40、50名の参加者がいるそうです。

取材した2016年10月1日は7回目、「収穫」の授業。農業小学校を担当する青年部員は教頭先生と呼ばれる武藤綾介さん。朝9時半に集まった子どもたちを整列させ、教頭先生の挨拶から授業が始まります。

「おはようございます。今日は参観日です。じゃがいも、かぼちゃ、ピーマン、なすを収穫しますので、お父さん、お母さんもぜひ一緒に畑に入ってください。」

今回の授業が例年と大きく違うことは、北海道を襲った台風が実習畑にも影響を及ぼしたことです。十勝の農業も大変な



トラクターの試乗体験



JAめむろ青年部土伏古支部16人のメンバー

「農業への熱い思いが伝わってくる」などの声が聞かれました。子どもたちのがんばりでコンテナいっぱいになったじゃがいもは、町内の学校給食で使われます。そして、授業の最後には「じゃがバター」が配られ、空の下で一緒にお腹を満たしました。

畑の一角には小麦も。「収穫した小麦は、製粉をして、うどんを打つ予定です。農業は地味な作業が多いので、あきる子どももいます。だから、みんなで食べるものを作る。というゴールを見せると、楽しく作業してくれれます」と、教頭先生の武藤さん。

農業小学校の開講時期は、農業の忙しい時期でもあります。その日も収穫の真っ只中でしたが、メンバー16人全員が揃いました。支部長の藤井信二さんは、「みんな忙しいけど、やめようと言うメンバーはいません。畑作や

酪農をやっていると、この実習畑で初めて育てる野菜もあって勉強にもなるんです。これはお手伝いじゃない、自分たち農家のための活動だと思ってやっています。」

土にふれ、野菜にふれ、そして、作っている人の気持ちにふれる農業小学校。子どもたちにとって、農家は大切な存在になり、農業を応援する心が自然に育っていくようです。

農業・農村は、食料生産という大切な役割を担っていますが、それだけではありません。たとえば、雨水を貯められる水田は洪水や土砂崩れを防ぎます。美しい風景は人々の心を癒します。観光に欠かせないものとなっています。このような働きは「農業・農村の多面的機能」と呼ばれます。「体験学習と教育の場」もそのひとつ。子どもたちは、農村で土や作物、動植物にふれることで、生命の大切さを実感し、食の恵みに感謝する心を育てます。農村のかけがえのない価値は、農業を持続することで守られます。

CONFA MEMO

いま、学校の食育は？

北海道では、多くの学校で「農業体験」を実施中。小学校は9割以上、中学校は8割以上、体験的な活動を取り入れた食育を行っています。北海道教育委員会の調査(平成27年)より

被害を受けましたが、この現実をしっかり伝えることも農業小学校の役割と青年部は考えました。じゃがいもが腐っているのは長雨と台風にあたってから。じゃがいもを一つ一つよく見て、いいものを収穫してください。」

子どもたちは、若い先生たちと話をするのが楽しくてたまらない様子で、畑は一気ににぎやかに。先生たちは楽しそうにおしゃべりしながらも、作物をそんざいに扱っ子がいたらすぐ注意します。

参加した保護者からは、「若い農家の方と話す機会ができてよかった」、「子どもが台所の手伝いをしてくれるようになった」、